

## 旧広島陸軍被服支廠に係る第 3 回懇談会等の開催状況について

### 1 要旨・目的

旧広島陸軍被服支廠の活用について、令和 4 年度末までに、実現可能性のあるアイデアを「活用の方向性」として、複数案取りまとめるため、「第 3 回旧広島陸軍被服支廠の活用の方向性に係る懇談会」（以下「第 3 回懇談会」という。）及び「第 2 回旧広島陸軍被服支廠の活用を考えるワークショップ」（以下「第 2 回ワークショップ」という。）を開催したので、その内容について報告する。

### 2 現状・背景

建物の安全対策を早急に進める必要があることから、耐震性を確保しつつ、内部見学などの利用が可能となる安全対策と最小限の利活用を同時に実現するパターンを基に、建物 3 棟の安全対策の実施設計業務に着手した。

併せて、重要文化財の指定に向けて、建築物の価値調査に着手した。

また、重要文化財の指定を見据え、指定後に必要となる建物の管理・活用の方向性等を定める保存活用計画の検討を進めるため、有識者等で構成する懇談会を設置・開催し、活用の方向性の取りまとめに着手した。

### 3 概要

#### (1) 活用の方向性の取りまとめについて

##### ア 第 3 回懇談会の開催状況について

##### (7) 実施主体

県

##### (イ) 日時

令和 4 年 3 月 22 日（火）10 時 00 分～

##### (ウ) 場所

広島県立総合体育館 中会議室

##### (エ) 出席委員

コア委員全 8 名、分野別委員 2 名出席

(オ) 実施内容

議題1：懇談会委員による活用アイデアの提供

活用の方向性の取りまとめに向け、懇談会での検討・議論の参考とするため、懇談会委員から分野に応じた被服支廠の活用アイデアなどの提供を行った。

内 容	所 属・氏 名
<p>(1) 世界の都市での様々な遺産活用事例</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○世界の都市での活用事例<ul style="list-style-type: none"><li>・廃止された鉄道の高架を公園としてリノベーション（ニューヨーク）</li><li>・造船所跡地を循環型経済の発信拠点として活用（オランダ）</li><li>・地域コミュニティの場として活用（福屋八丁堀屋上）</li></ul></li><li>○旧陸軍被服支廠利活用に対するアイデア<ul style="list-style-type: none"><li>・歩くことが楽しい緑地公園として整備</li><li>・日常的な散歩や交流の場面、子供たちの安全・安心な遊び場など</li></ul></li></ul>	<p>安部良アトリエ一級建築士事務所主宰 安 部 良 ※コア委員</p>
<p>(2) 無言の被爆者，声なき証言者 旧被服支廠赤レンガ倉庫</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○旧陸軍被服支廠における被爆体験談及び保全に関する活動</li><li>○旧陸軍被服支廠利活用に対するアイデア<ul style="list-style-type: none"><li>・1棟は、可能な限り現状保存とし、原爆に関する美術品などを展示</li><li>・一般見学者，外国からの訪問者，平和団体，芸術，伝統文化，演劇などの関係者が活動・交流・宿泊できる場</li><li>・市民ふれあいの場など</li></ul></li></ul>	<p>旧被服支廠の保全を願う懇談会代表 中 西 巖 ※分野別委員</p>
<p>(3) 被服支廠についての私の思い</p> <ul style="list-style-type: none"><li>○旧陸軍被服支廠利活用に対するアイデア<ul style="list-style-type: none"><li>・原爆に関する美術品などを展示</li><li>・沖縄にある広島県の戦死者の石碑レプリカの設置など</li></ul></li></ul>	<p>広島県原爆被害者団体協議会理事長 箕 牧 智 之 ※分野別委員</p>

議題2：被服支廠の活用を進めるための検討のポイント・基本的な方針に関する意見交換  
意見交換を行った結果、主な意見は次のとおりであった。

主 な 意 見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・人と人、世界と広島を「つなぐ」場としての考え方が重要ではないか。</li> <li>・被服支廠を広島の誇りや愛着のある場とするため、被服支廠の価値の発信（認知度向上）が重要ではないか。</li> <li>・広島歴史や風土を基に、新たな芸術や文化などの発信に結び付けていくという考え方が重要ではないか。</li> <li>・県民や市民が自分たちの被服支廠として、自らが活用を考えて創り出していくという考え方が重要ではないか。</li> <li>・被服支廠という場で、戦前、被爆、戦後という歴史を大切にしつつ、広島の未来に繋がる場として活用することを考えるべきではないか。</li> <li>・世界の中での被服支廠、広島の中での被服支廠、地域の中での被服支廠などの多様な視点により、活用を考えていく必要があるのではないか。</li> </ul>

## イ 第2回ワークショップの開催状況について

### (ア) 実施主体

県

### (イ) 日時

令和4年3月13日（日）13時00分～

### (ウ) 場所

県庁自治会館 101 会議室

### (エ) 参加者

38名（県民・市民等の参加者）

### (オ) 実施内容

#### 議題1：懇談会委員等からの活用アイデアの提供

ワークショップでの活用の意見交換の参考とするため、懇談会委員等からワークショップメンバーに対し、分野に応じた活用アイデアなどの提供を行った。

内 容	所 属・氏 名
<p>(1) アートを取り入れた、被服支廠の活用の方 向性について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○アートによる活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>・アートによる国際交流の場づくり</li> <li>・アーティスト in レジデンスとして活用</li> </ul> </li> <li>○旧陸軍被服支廠利活用に対するアイデア <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界的アーティストの作品制作や発表の場</li> <li>・作品制作のワークショップによる地域団体、生徒・学生との交流の場</li> <li>・アーティスト in レジデンスによって制作された作品の展示と収蔵</li> </ul> </li> </ul>	<p>NPO 法人ひろしまインターネット 美術館理事 つみ やま 積 山 ミ サ ※コア委員</p>

<p>(2) 旧陸軍被服支廠と原爆被爆</p> <p>—利活用を考えるにあたって忘れてはいけないこと—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○旧陸軍被服支廠の被爆時の状況や保全に関する活動の経緯</li> <li>○旧陸軍被服支廠利活用に対するアイデア <ul style="list-style-type: none"> <li>・核兵器廃絶学習センター</li> <li>・平和記念資料館分室</li> <li>・被服支廠を中心とした歴史・文学資料館など</li> </ul> </li> </ul>	<p>旧被服支廠の保全を願う懇談会 副代表 多賀 俊介 ※分野別委員代理</p>
<p>(3) 海外からみた被服支廠 平和、観光、コミュニティ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○海外における文化遺産の価値 <ul style="list-style-type: none"> <li>・海外では、文化遺産には本質的な価値があり、活用しながら保存すべきという考え方が常識</li> </ul> </li> <li>○外国人観光を誘致するための視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ヒロシマ」からの平和の発信</li> <li>・追悼要素と娯楽要素のバランス</li> <li>・活用しながら保存するための持続可能性の必要性</li> </ul> </li> </ul>	<p>株式会社JizoHat代表取締役 ポール・ウォルシュ ※分野別委員</p>

**議題2：被服支廠の活用の検討に当たって必要な視点に関する意見交換**  
意見交換を行った結果、次のとおり多様な意見が出ている。

類 型	必 要 な 視 点
次代継承する・未来へつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争や原爆に思いを寄せながらも未来につながる空間、明るい未来が想像できる場</li> <li>・子供、次世代につなぐ、残すべき場</li> <li>・未来の平和を創る場、平和の拠点</li> </ul>
価値の理解・認知度向上、誇り・愛着としての存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの人々に被服支廠を知ってもらうことが大事</li> <li>・被服支廠を広島の誇りにすることが大事</li> <li>・広島の前戦の歴史から戦後の復興までを知ることが大事</li> </ul>
地域のものとしての存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服支廠や土地の持つ歴史や背景などを尊重しながら、現在の周辺環境を考慮した活用が大事</li> <li>・地域内で大切にされる場であるとともに、地域を超えて歴史を共有できる場</li> </ul>
創造・体験の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広島における創作活動の始まりの場、芸術・文化の発信の場</li> <li>・モノづくりの場（被服支廠）であった歴史性</li> <li>・アート作品から平和の祈りを発信</li> </ul>
持続性・収益性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10年先、20年先も持続可能な施設</li> <li>・自分たちでより良い活用を考えながら、使い続け、受け継いでいくことが大事</li> </ul>

**ウ 懇談会・ワークショップの今後の議論の進め方について**

- ・懇談会においては、被服支廠の活用を進めるための基本的な方針を整理した上で、ワークショップでの意見交換などを踏まえ、活用の方向性のとりまとめに向けた議論・検討を進める。
- ・ワークショップにおいては、引き続き、活用に当たって必要な視点等を整理した上で、具体的な活用のアイデアをとりまとめ、懇談会へ報告する。